

<第5回 微分の計算その2・偏微分>

[予習問題の確認]

1. 以下の各式について、 $y$  を  $x$  で微分せよ。

①  $y = 4x^{\frac{3}{2}} - 9x^{\frac{1}{3}}$

②  $y = (3x^2 - 5x + 2)^4$

[新しい概念]

・偏微分とその計算方法

偏微分は、変数が3つ以上の式において、他の変数は変化しないと考える(定数とみなして)おこなう微分である。

右図のように  $y$  が  $x$  と  $z$  の関数となっていたとする。

このとき、 $y$  を  $x$  で偏微分するということは、この関数を  $x$  軸に平行な直線で切り取り、その断面の関数(右下図)を微分するということである。

たとえば、 $y = 5x^2z^4$  を  $x$  で偏微分すると、

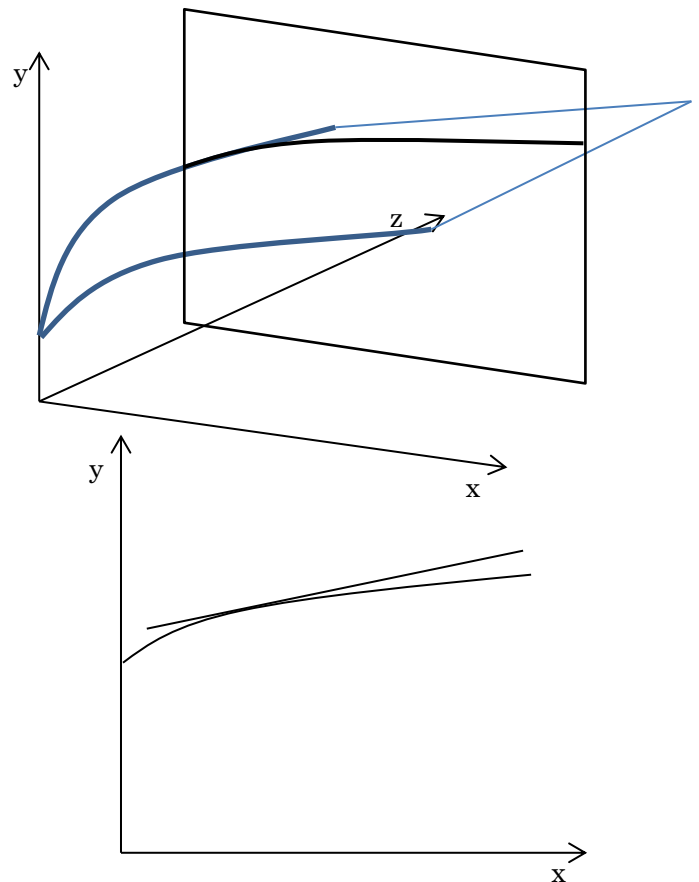
$$\frac{\partial y}{\partial x} = 2 \cdot 5x^{2-1}z^4 = 10xz^4$$

となる。

また、この  $y$  は  $z$  でも偏微分することができ、

$$\frac{\partial y}{\partial z} = 4 \cdot 5x^2z^{4-1} = 20x^2z^3$$

となる。



**[練習問題]**

2. 以下の各式について、 $y$  を  $x$  と  $z$  でそれぞれ偏微分せよ。

①  $y = 4x^3z^2$

②  $y = 2x^3z + 4$

③  $y = xz + 5x + 5z$

④  $y = 2x^{\frac{1}{3}}z^{\frac{2}{3}}$

⑤  $y = (3x^2 + 2z^2)^3$

3. 生産量を決める要素として、資本(K)と労働量(L)がある。いま、生産量(Y)が資本と労働量の関数として、 $Y = K^{\frac{1}{3}}L^{\frac{2}{3}}$ とあらわされるとする。

(1) このとき、資本の限界生産力(生産量を資本で偏微分したもの)と、労働の限界生産力(生産量を労働量で偏微分したもの)を求めよ。

(2) このとき、生産者にとって、最適生産点(ある量を生産するとき、その費用が最小となる資本と労働量の組み合わせ)は

$$\frac{\text{資本の限界生産力}}{\text{資本の価格}} = \frac{\text{労働の限界生産力}}{\text{労働の価格}}$$

が成り立つときである。資本の価格が 2、労働の価格が 1 であるとき、生産者が Y を 10 だけ生産するのに最適な資本(K)の大きさはいくらになりますか。